

予報期間 8月18日から8月24日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 20日から21日は、低気圧がオホーツク海からカムチャツカ半島付近に進み、前線が日本付近を南下する。千島の東の高気圧が日本の東に張り出す。
- 22日から23日は、前線が日本の東から本州の南付近にのび、高気圧が日本の南から沖縄付近に張り出す。
- 24日は、高気圧が日本の南に張り出し、中国東北区から沿海州付近に気圧の谷が進む。

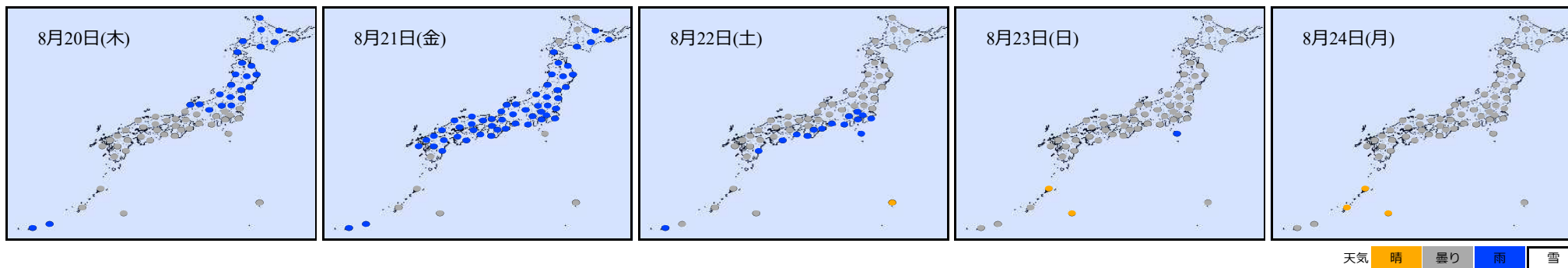
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 20日は、北日本では前線に暖かく湿った空気が流れ込むため大雨となり、前線の活動の程度等によっては警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

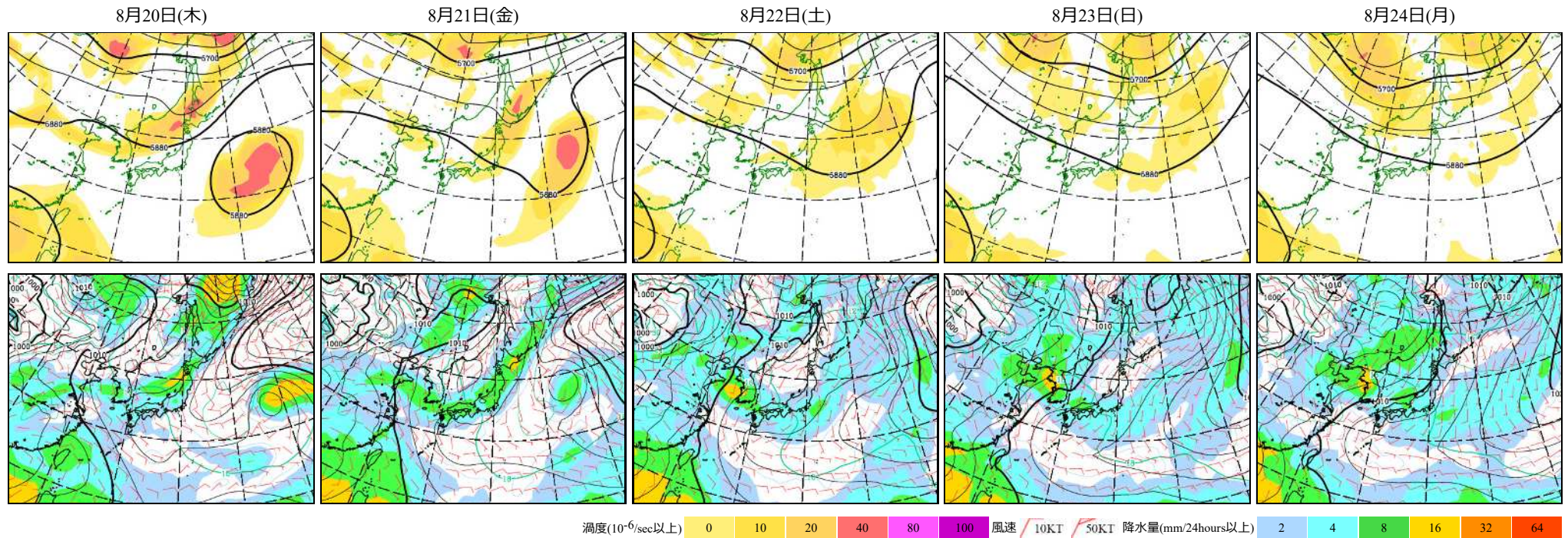
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

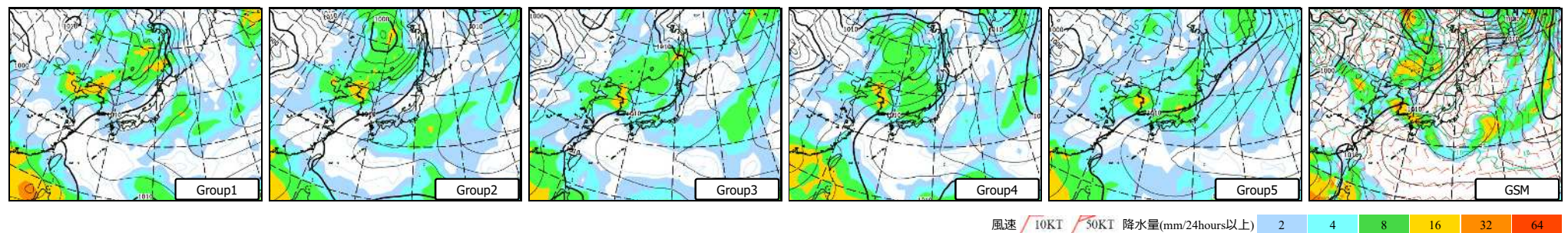


- 北日本と東日本、西日本は、雲の広がりやすい日が続き、20日から22日は雨の降る日がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく、20日から22日は雨の降る所がある。23日から24日は晴れる所もある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆8月24日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、上空の流れに大きな初期値変わりはないが、期間の終わりに中国東北区からサハリン付近に進むリッジが弱くなり、やや東進が遅くなった。地上の気圧配置も大きく変わらないが、22日から23日に沿海州からオホーツク海に進む低気圧が明瞭となった。また、22日に本州付近を通過する前線の南下が早まった。
- 21日頃までは各モデルの予想は概ね揃っており、モデル間の差は比較的小さい。23日から24日は、海外モデルではトラフが沿海州から日本海にのび、低気圧が日本海から北日本に進む予想を示すが、日本モデルではトラフの東進が遅く、期間の終わりの天気の前線の崩れるタイミングに相違がある。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。